

## 野菜から野菜をつくろう

採用プログラム：「ナザレト愛児園」

平成25年度山形県知事賞：認定こども園めぐたま

平成25年度福島県知事賞：福島大学附属幼稚園

### 【プログラムの概要】

本プログラムは、保育園・幼稚園や家庭において出た野菜くずや食べ残しなどの廃棄食材等を使って堆肥づくりにチャレンジするプログラムです。

保育園・幼稚園内または家庭において行われる野菜や植物の栽培体験の際、廃棄食材等を用いた堆肥を実際につくったり、用いることで、園児たちに廃棄食材が資源として活用できることや野菜や植物にはこうした有機物が生長には欠かせないということを理解・学習することで、自然のメカニズムや資源循環について理解を深めるものです。なお、本プログラムは、「ナザレト愛児園」で実施されたプログラムにESDの視点を取り入れ汎用化したものです。

### 【プログラムの所要時間】

本プログラムは、保育園・幼稚園または家庭において、野菜や植物の栽培の際に、有機物をつくったり、用いることで、幼児や園児たちに資源循環等の理解を促すものであり、栽培する対象や時期により所要の時間は異なるため、総合的な所要時間は設定しないものとする。

### 【対象】 保育園児・幼稚園児等の幼児

### 【主なESDの視点】

持続可能な社会づくりの構成概念						ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度						
Ⅰ 多 様 性	Ⅱ 相 互 性	Ⅲ 有 限 性	Ⅳ 公 平 性	Ⅴ 連 携 性	Ⅵ 責 任 性	① 批 判 的 に 考 え る 力	② 未 来 像 を 予 測 し て 計 画 を 立 て る 力	③ 多 面 的 ・ 総 合 的 に 考 え る 力	④ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 行 う 力	⑤ 他 者 と 協 力 す る 態 度	⑥ つ な が り を 尊 重 す る 態 度	⑦ 進 ん で 参 加 す る 態 度
○		○						○		○	○	○

### 【ESDの目標】

(1) 構成概念

- ・廃棄食材等が有機物として活用されることで新たな植物が生長。(Ⅰ多様性)

・植物や野菜の生長には有機物などの栄養が不可欠であり、そのためには豊かな自然環境が必要（Ⅲ有限性）

（2）能力・態度

・廃棄食材が堆肥となり、野菜の栽培に役立つことを理解することで、ものごとを多面的総合的に考える能力を養う。

（③多面）

・堆肥づくりや野菜栽培にあたり、幼児たちが協力しあいながら作業を進める態度を養う。（⑤協力）

・堆肥づくりや野菜栽培をとおして、生物の多様性や循環型社会などの社会のつながりを理解する態度を養う。

（⑥つながり）

・全員で堆肥づくりから野菜栽培を行うことで率先して参加する態度を養う。（⑦参加）

## 【幼稚園教育要領で関係する部分】

### 1 心身の健康に関する領域「健康」

（3）進んで戸外で遊ぶ。

幼児の年齢や生活経験などに考慮しながら、園内の遊具や用具を配置したり、自然環境の整備をしたりするなどして、幼児が進んで戸外で遊ぶことができるようにするとともに、園庭ばかりではなく、近隣の公園や広場、野原や川原などの園外に出掛けることも考えながら、幼児が戸外で過ごすことの心地よさや楽しさを十分に味わうことができるようにすることが大切である。

（5）先生や友達と食べることを楽しむ。

本来、食べることは、人が生きていくために必要なことである。幼児は、十分に体を動かして遊び、空腹感を感じるからこそ、食べ物を食べたときに、満足感を心と体で味わう。さらに、気持ちが安定し、活力がわき、積極的にいろいろな活動をするようになる。このような体験を繰り返すことは、幼児が、食べることの楽しさや喜びに気付き、幼児らしい充実した生活をつくり出す上で重要である。

### 3 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」

（1）自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。

幼児は、様々な物に囲まれて生活し、それらに触れたり、確かめたりしながら、その性質や仕組みなどを知っていく。初めは、感触を試し、物とのかかわりを楽しんでいるが、興味をもって繰り返しかかわる中で、次第にその性質や仕組みに気付き、幼児なりに使いこなすようになる。物の性質や仕組みが分かり始めるとそれを使うことによって一層遊びが面白くなり、物とのかかわりが深まる。物の性質や仕組みに気付くことと遊びが面白くなることが循環していく。

（6）身近な物を大切にすること。

幼稚園生活の中で、身近な物を大切にし、無駄なことをしないようにする気持ちを育てることが大切である。幼児は物に愛着をもつことから、次第にそれを大切にすることの気持ちが育つので、一つ一つの物に愛着を抱くことができるように援助することが大切である。幼児は物を使って遊ぶ中で、その物があることによって遊びが楽しくなることに気付き、その物に愛着をもつようになる。そのため、教師は、幼児が遊びを十分に楽しめるように援助することが大切である。また、教師自身が物に愛着をもち、大切に扱っている様子を幼児に示すことも大切である。

## 【プログラムの流れ】

学習のねらい・取組例	教材等
<p><b>【実施にあたって】</b></p> <p>野菜や植物の栽培について、園児たちに説明する。</p> <p>①食事の時間などに<b>野菜に触れて、廃棄食材についても興味を持たせる</b>ように工夫する。</p> <p>②園児たちと食事をし、<b>廃棄食材(食べ残し)等で堆肥作り</b>(生ゴミリサイクルセット等を利用)を行う。</p>	
<p><b>【栽培】(※期間的に可能な場合)</b></p> <p>作った堆肥を利用し、実際に野菜や植物を栽培する。</p> <p>種を植え、水やりや観察などを通して、<b>園児たちに興味を持たせる。</b></p> <p>①当番や全員などで、水やりなどの世話や観察や記録などを行うことで園児たちへ植物や野菜への関心を高める工夫が必要。</p> <p>②植物の生長と堆肥について園児たちへ説明する。</p> <p>③栽培する野菜・植物を下記リストから選んで決める。</p> <p>(ショートプログラム実施期間に栽培が可能な比較的生長の早い主な野菜・植物リスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カイワレダイコン                      ・コマツナ                              ・ブロッコリー</li> <li>・キャベツ                                ・ハツカダイコン                      ・ヒマワリ</li> <li>・コスモス                                ・パンジー                                ・カーネーション</li> <li>・マリーゴールド</li> </ul>	
<p><b>【まとめ】</b></p> <p>廃棄食材(食べ残し)が、堆肥の栄養になることや野菜や植物の生長に必要なことを園児たちへ理解させ、<b>自然環境への理解や関心を高める。</b></p>	

廃棄食材と堆肥の関係がイメージできるように伝える工夫を考えてみましょう。

作った堆肥が、野菜や植物を育てていることを理解できる工夫を考えてみましょう。また、園児たちが植物や野菜への関心を高められる工夫をしましょう。(例:生長課程を絵で描く等)

自分の出した廃棄食材(食べ残し)を使って実際に作った堆肥を通して、園児たちがどう感じたか等、聞いていってみましょう。

※ I～VI、①～⑦のそれぞれ何を主眼とするか意識して実施する。

**【平成 25 年度 山形県知事賞：認定こども園めぐたまの取組】**

内容	進め方・留意点
<p><b>【導入】</b> 野菜くずを持ち寄って堆肥づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭から野菜くずを持ち寄り、手でちぎって小さくし、裏山から採ってきた土着微生物、米ぬか、畑の土と一緒によく混ぜる。</li> <li>・野菜くずを混ぜた土にわらをかぶせ、ブルーシートを乗せて3日間待つ。</li> <li>・3日後にシートを取り、手を入れるとあつくなっていることを子どもたちに体験させ、菌が赤ちゃんを産んで増えることで起こる発酵熱であることをおしくらまんじゅうで体験的に理解させる。</li> <li>・その後1ヶ月、土を定期的に混ぜ続け、発酵を待つ。</li> </ul> 
<p><b>【展開】</b> 実際に野菜を育てる・収穫する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できあがった堆肥で、きゅうり、トマト、なす、スイカ、里芋、じゃがいも、大根、にんじん、ピーマン等を栽培する。</li> <li>・栽培した野菜は収穫し、お泊まり会などで食べる。</li> </ul> 
<p><b>【まとめ】</b> ①体験したことを楯にして再現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜を育てて体験したことを、一つのストーリーとしてオリジナルの物語を作っていく。</li> <li>・出来た話は、お楽しみ会で劇として発表する。</li> </ul> 
<p>②絵本にしてまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更に発展させ、園児一人ひとりに「世界に一冊しかない絵本」を作らせる。</li> </ul> 

【平成 25 年度 福島県知事賞：福島大学附属幼稚園の取組】

内容	進め方・留意点
<p><b>【導入】</b> ①子どもたちの好奇心をかきたて、興味をもたせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理で出た野菜の皮や残菜、床に落としてしまったお弁当のおかず等を土と混ぜたらどう変化するか、子どもたちに質問をなげかけ、好奇心をかきたてる。</li> </ul>
<p>②堆肥作り実験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「畑」「透明ケース」「段ボールコンポスト」の3パターン用意し、土の中で食物がどのように変化していくのかを子どもたちがいつでも観察できるようにする。</li> </ul> 
<p><b>【展開】</b> ①野菜や花を栽培して、収穫する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄食材入りの土を使い、園児一人ひとりがパンジーを植える。</li> <li>短期間で収穫ができて、園児にとっても栽培しやすく、食べやすい身近な野菜（さつまいも、ジャガイモ、きゅうり、枝豆、ブロッコリー、キャベツ、大根等）を選んで栽培する。</li> </ul> 
<p><b>【まとめ】</b> ①野菜を収穫して焼き芋などで食べてみる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫した野菜を使って郷土料理や焼き芋などを体験。</li> <li>出た残滓や焼き芋の焦げなどをコンポストに入れて、食べ物の大切さを実感させる。</li> </ul> 
<p>②体験したことを絵で表現する、家庭への波及を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土の中で起きたことを園児たちに想像させて絵を描かせる。</li> <li>送り迎えのときなど、保護者の方も一緒にコンポストの中身を観察し、家庭への波及を図る。</li> </ul> 